土地利用革新プログラムセミナーシリーズ第１３回

「『自由貿易』はどこに向かうのか？
農林水産物の貿易と環境へのインプリケーション」

土地利用革新のための知の集約
Land Use Program
RIHN

日時：2025 年 5 月 12 日（月）14:00〜16:00

会場：地球研　セミナー室３・４

＜講演者＞

林　正徳 氏（早稲田大学　地域・地域間研究機構　日米研究所　招聘研究員）

農林水産省で食品規格・消費者保護、農業保険、国際交渉（GATT、WTO、OECD、APEC など）、農林水産統計などに従事し、2003 年退官。2011 年から早稲田大学地域・地域間研究機構（日米研究所）客員上級研究員。横浜国立大学博士（学術）。

「土地利用革新のための知の集約プログラム」は、2025 年 5 月 12 日（月）に、総合地球環境学研究所セミナー室３・４にて、ハイブリッドでセミナーシリーズ第１３回を開催しました。今回のセミナーではまず林正徳氏（早稲田大学地域・地域間研究機構日米研究所）に「貿易ルールの歴史的展開と日本の食料システム」と題したご講演をいただきました。100 年単位のスパンで国際経済体制の変遷とそれに対する米国の姿勢に議論の射程を広げることにより、今回のトランプ関税の衝撃の解釈も違ったものになること、また我が国のコメを中心とした「閉じた食料システム」が、予見可能性が大きく低下することとなる今後の国際政治経済環境のなかで、どのような変化を遂げるべきかについても貴重な示唆を与えてくださいました。さらに林氏のご講演の後、国際貿易交渉などに広範かつ深い経験を有する横井幸生氏（農業・食品産業技術総合研究機構 NARO 開発戦略センター 元国際植物防疫条約事務局長）と牛草哲朗氏（輸入食糧協議会副会長・事務局長 元 OECD 農業委員会議長）をパネリストにお迎えして、林氏が提示した論点について議論を深めました。農業や農業政策を専門とする研究者や実務家の方々48 名が参加し、終了後には「歴史的経緯・整理がとても勉強になりました。」などの感想をいただきました。

牛草哲朗氏（左）

横井幸生氏（中央）

コメントする荘林 PD（右）